

スコレ・マスターズ通信

第31号
平成21年3月25日

第6回「男性のための生きがい講座」(主催：東海中部地区) 永池会長を講師に迎え過去最高の95名が参加 小寺房征さんも迫力の熱弁！

2月22日(日)、スコレ・マスターズ東海中部地区は第6回「男性のための生きがい講座」を開催。本講座は、第4回までは外部講師と永池会長の二人を講師とする形で行われてきましたが、昨年の第5回から講師を永池会長のみとし、今年は新企画として地区マスターズ会員からの発表を組み入れた内容で行われました。

5年前は20名程度だった参加者も、回を重ねるごとに順調に増え、今回は95名と過去最高。男性参加者が多数を占める中で、若い夫婦連れも目立つようになりました。本講座の順調な成長は、マスターズ東海中部地区の充実振りを示しています。

当日は、来賓の浅井武司 岐阜市議会議員が「私もスコレ会員です」と挨拶、続いて安藤征治 岐阜市教育長から「マスターズに期待しています」と激励があり、会場は一気に盛り上がりました。

第一部は、地区リーダーの小寺房征さんが「敬う心」と題して、自分の生い立ち、両親との思い出、父親の権威などを語る中から、人を敬う心に



ついて、30分間原稿も見ずに迫力ある熱弁をふるいました。

続いて第二部は、永池会長が「子どもたちに伝えていくもの」と題して講演。生への感動や親への信頼など、豊かな時代になって消えてしまったものを、この時代にどう培っていけばよいかを課題だ、と力説。さらに、親が自分に何を残してくれたかを実父の思い出を例に触れた後、「父親は子供ともっと遊ぶこと」などの具体例を示し、親子の絆の回復が極めて大事なテーマであることを強調しました。会場のあちらこちらで、ご夫婦がともに頷きあっている姿が印象的でした。

マスターズ生きがい講座は、現在、首都圏と東海中部だけの開催です。リーダーの小寺房征さんの“持続的な開催への熱意と牽引力”が若手会員に波及し、ますます充実拡大しています。一方、首都圏地区は7月18日(土)に「生きがい講座」を開催する予定。東海中部の熱気を継承し、例年以上の参加を目指しています。(小俣 富雄)

スコレ会館が稼働

協会の新たな拠点に本部事務局も移転



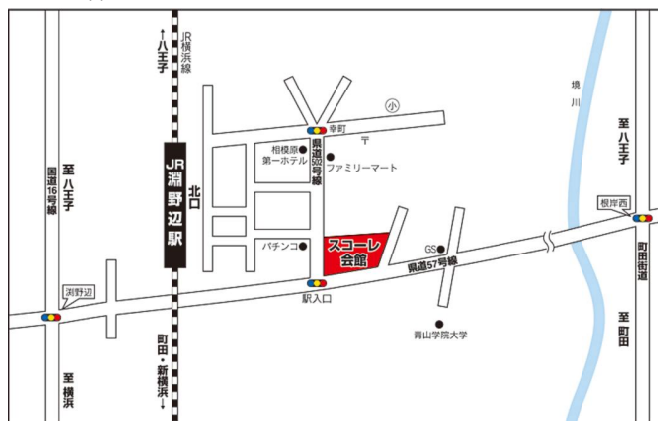
スコレ協会では来年の活動開始30周年に向けて、新会館を取得、稼働準備を進めてきました。いよいよ新会館が出来上がり、3月から本

部事務局も移転、協会の新たな拠点が立ち上がりました。今後、協会の様々な活動は新会館で行われ、マスターズの活動も新会館にて開催されます。

現在も内装や設備を整備中ですが、研修設備、会議室、事務所も広く素晴らしいものが出来上がっています。新たな会館のオープンは協会の更なる躍進の礎となると考えます。また、私たちも新しい革袋にふさわしい活動を活発に展開することが求められます。

【スコレ会館まで】

- ◆ JR横浜線「淵野辺駅」北口より徒歩5分
 - ◆ 小田急線「町田駅」からJR横浜線乗り換え(八王子方面) 2つ目7分
 - ◆ 東海道新幹線「新横浜駅」からJR横浜線乗り換え(八王子方面) 9つ目28分
- (注) 淵野辺駅に快速電車は停車しません
- 社団法人 スコレ家庭教育振興協会
- 〒229-0006 神奈川県相模原市淵野辺4-37-17
電話 042-707-4500 FAX 042-707-4505



♪♪♪ 投稿コーナー ♪♪♪

団塊世代(1947~49年生まれ)の最後の年代が今年60歳の定年を迎える。2004年当時、ある民間シンクタンクの調査によれば、団塊世代の金融資産は130兆円と個人金融資産総額の一割を占め、退職金規模は50兆円の見込みと報じていた。そして預貯金や公的年金が少ないこと等で、団塊世代の75%がお金のために働くことを希望し、ライフスタイルとしては、スポーツなどの趣味、家族や仲間友人との団欒に強い関心があった。

あれから5年経った。私の周囲を見ると、完全リタイア組は少ないと感じる。その意味では、当時の調査結果が頷ける。

経済面では、活動的な団塊世代が消費動向を大きく動かすと期待されていたが、どうなのだろうか？ 昨年のリーマンショック以来の世界同時不況の波が、そんな皮算用を吹き飛ばしてしまっているのかも知れない。

かく言う私は、6年前に61歳で完全リタイアをした。定年後の人生に夢を持つのはたやすいが地に付いた生き方をしたいと思い、50半ばで三

つの柱を作った。

- ①健康⇒スポーツジム通い。
- ②パソコン⇒技術習得と活用。
- ③社会貢献⇒スコーレ活動への参加。

定年退職後の人生

多摩ブロック 金井 繁



いずれも10年を経て現在の生活はバランスのよいリズム感を形成している。この間仕事関係が激減し、地域関係に人脈はシフトした。ジム仲間やスコーレで知り合えた交流はお陰様で、楽しく、和やかな雰囲気も充実感を作ってくれている。

実は、それ以上に大切に思っているのが「妻との団欒」である。夫婦二人となった現在、スコーレで学んだ「夫婦の有り様」を摸索しつつ、共に作った家族の歴史を共有し、お互い健康ななか、できるだけ日常会話の輪を広げて「癒しの家庭の構築」に日夜奮戦努力している。

そして、孫たちとの交流も大切だ。時折会う孫たちのその感性にいつも驚き感動している。将来成長した孫たちが思い出を語れるような“祖父像”を残したいと思っている。

スコーレ・マスターズ通信30号(平成21年1月27日発行)のコラム欄楽しく読ませていただきました。その中でネパールの停電について元旦に日本のラジオ放送があったとのこと。ネパールに関わっている者として嬉しく思いました。最貧国であり、ヒマラヤ山系以外は世界の人々から見放されているのではないかと時折心配になりますが、マスコミが取り上げてくれたことに感謝です。

ネパール国民の8割がヒンデゥ教徒であり新年は4月中旬(ビクラム暦)です。従って、西暦の新年は通常と同じで祝日でもなんでもありません。日本人・西洋人のみがクリスマスと新年を祝っております。今、ネパールの停電時間は1日16時間です。連続8時間停電→4時間通電→8時間停電→4時間通電が基本サイクルです。そのような状況下での新年は以下のようなものでした。

正月は元旦より4日間(4日が日曜日であったため)が休日でした。31日の大晦日は小生の宿泊しているホテルで多くの先輩、同輩、後輩が「紅白」「年越しソバ」を楽しみました。紅白に関しては時差が3時間15分なので当地は4時頃から始まり、

終わりは9時頃ごろですから紅白を最後まで見たのは約30年振りでした。また元旦、2日の朝はホテルが雑煮をご馳走してくれお正月らしい気分を味わいました。

ところで、停電の件ですが、この紅白の時はホ

電気の無い中でのネパールのお正月

青葉・都築ブロック 桑折 能彦



テルが発電機を動かしサービスしてくれました。それで、紅白を見ることが出来たうえに、ソバが食

べられるとのことで日本人が集まって楽しく過しました。停電の理由は色々あるようですが、一番の理由は需給のアンバランスのようです。国民の需要に、国の施策が追いつかないと聞いております。雪解けが始まって来たので、停電時間が多少短くなるとの情報もありますが、それは微々たるものようです。

蛍光色よりも電球色、それも裸電球で直接照らされた食材、食物にはいまも懐かしさとおいしさを感じます。しかもその裸電球が停電になり、家族がローソクの光のなかで会話を楽しんだことも今となってはいい思い出です。いま、ネパール人はこれを楽しんでいるのかも。電気の無いのもいいものです。(09年2月9日)

連載

父親の役割 ⑤

岐阜ブロック 小寺房征

VII 肯定感と社会性を育てる

共感してくれる父親



「父親よ、しっかりせよ」「父親の権威を取り戻そう」と今、盛んにいわれていますが、単に、威張ったり、怒鳴ったり、「頑張れ、頑張れ」と言っても、今の子どもたちはついてこれません。昔の父親の復活には無理があります。昔は封建主義だったから、それで通りましたが、今の子どもたちには、それだけのパワーがありません。規範の強制、つまり権威主義を背景とする教育、訓練、発破とかはよけいに子どもたちの力を押さえつけてしまうばかりです。今は、知的レベルの高い親が多く、権威主義的対応をすることでわが子と否定的関係に陥り、苛烈な状態を生んでいるわけです。それが否定的なエゴを育て、打たれ弱い子供を作っているわけです。今、不登校の子どもたちが13万人もいます。これは子供のガス欠現象、家庭のガス欠現象です。

規範の強制は、もう通用しません。子供の視点まで降りて導く。叱るよりも誉める、悪いところを指摘するよりも良いところを伸ばす。つまり、共感してくれる父親、認めてくれる父親、ここに、肯定的なエゴの育成が生まれると思います。肯定的なエゴが生まれることによって、自立と責任感を担う性格の良い人間が育ちます。子供の悩みや不満を感じ取れる父親、子供の視点まで降りて導く、叱るよりも誉める、悪いところを指摘するよりも良いところを伸ばす、共感し、認める父親になることが必要ではないでしょうか。

わが子に社会性を与える

もうひとつ父親の役割として、会長の著書、『今日、“いのち”の扉を開く』を紐解いてみますと、父親の役割はわが子に社会性を与えることだと述べられています。その中身は「法と正義の遵守」ということです。私達の住んでいる社会はその実現を目指していることは間違いありません。ただそれは母親のぬくもりとは異なる厳しい世界です。それに反すると罰が与えら

れるからです。社会はルールがなくなると崩壊いたします。

家庭においてこうした社会の厳しさを教えることができる存在はどうしても父親でなければならぬのはそうした理由によるものです。なぜなら、現代の日本は経済大国になる過程で、国民の最低限の生活を保障する制度を、作り上げるのに成功しているからです。さまざまな形での社会保障が整備された地球上でも少ない国のひとつに、私達は住んでいるわけです。決して十分とはいえないにせよ、普通に暮らしていれば飢え死にすることのない社会になっています。

そうなる、父親は家族が生きるための糧を確保していればそれでよい、と言う態度は間違っていると云わざるを得ません。一生懸命働いてその背中を見せればよいという時代でなくなってきました。今、必要なのは子どもたちに心の栄養を与えることではないでしょうか。

VIII 物の豊かさ、心の豊かさ

夢と感動を持って生きる

発展途上国に行かれた方から聞かされたことですが、日本の子供の目には光がないのに、あちらの国の子供の目は輝いていると言われます。日本の子どもたちの目から輝きが失われたのは何時ごろからでしょうか。

日本が豊かな社会になり子どもたちが生まれながらにして高水準の生活にくるまれて育つようになった。そのころからではないかと思えます。

物質的な豊かさに見合う、精神的な豊かさの形成が立ち遅れた分だけ、日本の家庭は問題を抱えるようになったといえます。その責任の半分は父親が負うべきだと思うのです。父親は現実の社会に身をさらして働いているので「そこまでは面倒見切れない」といわれる方がいるかもしれません。しかしそれは逃げ口上です。厳しい現実と戦うものほど自らの内に激しい理想精神がいるのです。親が夢と感動を持って生きる、その生き様が今求められているのではないのでしょうか。



ここに、日本家庭生活研究協会が編集した「お父さんの10か条」という小冊子があります。父親として心がけなければならない子育ての基本的項目を挙げたものです。次号で「お父さんの10か条」について述べますが、子どもたちに伝えたい事、残したい事は整理しておきたいものです。(つづき)

人生学講座

新年度本部研修

4月からのマスターズ研修は淵野辺に竣工した新スコール会館の研修室で開催されます。上半期は下掲の日程・要領で「心身開発トレーニングコース」と「人生学コース」の月2回の開催となります。

心身開発トレーニングコース	人生学コース
4月5日(日)	4月12日(日)
5月10日(日)	5月17日(日)
6月13日(土)・14日(日): 宿泊研修	
7月5日(日)	7月18日(土)
8月2日(日)	8月23日(日)
9月6日(日)	9月13日(日)

受講料は「心身開発トレーニングコース」「人生学コース」それぞれに5,000円(上半期)ですが、「心身開発トレーニングコース」と「人生学コース」のダブル受講は7,000円(上半期)となります。

体験参加も受け入れていますので是非ご参加下さい。体験参加は無料です。

- ※ 6月はマスターズ総会を兼ねた「箱根湯本ホテル」での宿泊研修となります。
- ※ 7月の人生学コースは土曜日に実施、一般公開の「生きがい講座」として新会館で開催します。

心身開発トレーニングコース (10:00 ~ 12:30)

<リラクゼーション禅> 小川本部長
 <ボイストレーニング> 小川本部長
 藤田・柴原各委員(トレーナー)
 <ボイストレーニング(朗読練習)> 北澤委員
 トレーニング後、昼食懇談会(500円)を開催します。

人生学コース (10:00 ~ 12:00)

第一部【60分】
 <実践体験の事例発表> 講師養成講座メンバー
 第二部【50分】
 <会長講話&質疑応答> 永池会長・小川本部長

当面の行事予定

- 4月~9月 上期研修実施 (スコール会館・研修室)
 日程は上記に案内
- 5月下旬 冊子「危機管理・対応事例集」
 第3集発行予定(危機管理研究会)
- 5月下旬 マスターズ通信第32号発行 (広報委員会)
- 6月中旬 マスターズ年次総会&研修
 (箱根湯本ホテル)
- 7月18日「首都圏生きがい講座」
 (スコール会館・研修室)
- 7月下旬 マスターズ通信第33号発行 (広報委員会)

青	朱	白	玄
春	夏	秋	冬

先月、爆弾低気圧といわれる猛烈な低気圧が北海道を中心に北日本を襲ったことがあったが、その折たまたま札幌から東京へ帰ろうとしていた。もちろん飛行機は全て欠航、2日後まで席がとれるかどうかわからない状態であったので、空路がダメなら陸路でと思いとりあえず夜行列車で青森へ向かった。

しかしながら積雪、強風のため函館でしばらく停車した後運転打ち切りとなり、駅に放牧されてしまった。あらためて八戸までの特急に乗り換えなければならないが、函館は晴れてはいたが午前中の特急は全て運休、午後から運転再開というアナウンスで、自由席に乗るため早い時間から寒いホームに長い列ができた。列車の入線は発車の15分ぐらい前とアナウンスされていたが時間通りに来なかったことと、寒い中で長時間待ったせいもあり待機していた乗務員を相手に乗客が少し騒ぎ出した。その折乗務員は、騒ぎ出した乗客の話聞きながら現状を詫び、これから走ろうとする津軽地方の状況などの説明を行った。

その中で、JRの電力は確保されたが沿線の数多くの世帯が現在もまだ停電のままであることなどが伝えられると、大きくなろうとしていた騒ぎが収まり、元の空気に戻った。乗務員の適切な説明と、現状に困っているのはわれわれ乗客だけではないと感じたからであろう。昨今なんとかモンスターと言われる人種が増えてきているなかで、少し救われた気分になった。(梶田 健二)

* 編集後記 * 先日、5歳の息子から「パパ、損をするって何？」と聞かれ、その場で答えられず、少々考え込んでしまいました。普段、経理の仕事をする私。「収益-費用=利益又は損失」という算式が頭に浮かびます。ただ、これは企業会計の話。この辺を「心」という次元から考えてみると、スコールで学習するように、物事に潜むプラス面とマイナス面を意識させられますし、人生においては、何事も学びであり、時を耕し成るを待つ心の豊かさが求められるように感じます。それは単純な損得計算とはなりません。息子の質問を考えてみて、言葉の意味をどう捉えるかは、ときに生き方に結びついてくる…と感じました。とすれば、その意味するところは、まさに親の生き方をもって伝えていく外はないものと、緊張した次第です。(白石 英樹)

編集：社団法人 スコール家庭教育振興協会
 スコール・マスターズ 広報委員会

発行人：小俣富雄
 〒194-0013 東京都町田市原町田4-7-12
 TEL：042-707-4500
<http://www.schole-masters.org>